

平成20年10月27日
記者会見資料

松阪記者クラブ様

担当者

発表事項 『どんど花の唄』について

内 容 町制50周年行事として、10月10日に野の花の会（代表乾茂子さん）主催による「黒坂黒太郎・矢口周美うたとコカリナコンサート」が開催され、そのコンサートにおいて、黒坂黒太郎さん作詞・作曲の明和町にちなんだ『どんど花の唄』を披露していただきました。

黒坂さんは、今年コンサート活動35周年を記念して全国100カ所で地域に根付いたコンサートをされています。以前野の花の会で黒坂さんのコカリナコンサートを開催したこともあって、声をかけていただきました。

今回のコンサートの企画の中に、全会場でそのコンサートだけの曲、又は歌を発表してもらえることになり、野の花の会から明和町に関する資料を送り、明和町町制50周年を記念し、明和町の歴史、自然にちなんだ曲、また、コカリナのコンサートが町内の全小中学校で開催されることとなったので、子どもたちが、この町に誇りと希望をもっていけるよう、また、これからもいろんな機会に歌いついでいってくれるような曲をリクエストし、黒坂さんからこの『どんど花の唄』がプレゼントされました。

黒坂さんは、この曲について、「子どもたちにも歌えるよう、やさしい曲にしました」というコメントをいただいています。

「どんど花」は、明和町の町の花でもあり、天然記念物に指定されています。昔の面影を残しながらも「紫の雲がたなびくように、非常に美しい眺めで訪れる人々の心を和ませてくれる花」、凜として咲く濃い紫色の花には気品が漂い、初夏の風にそよぐ可憐で清楚に咲くどんど花に魅せられ、この花のように明和町の子どもたちに素直さやさしさを持ち続けていってほしいというメッセージも含まれているのではないかと思います。また、11月に町内の小学校で開催されるコンサートの折に、『どんど花の唄』をつくられた思いを尋ねたいと思います。

黒坂さんは、この日、東野にあるどんど花の群生地を訪ねられま

した。今は咲いていないどんど花ではありますが、湿原にスラリと濃い紫の花弁を垂れる姿に思いを寄せられたのではないかと思います。コンサートの中で、どんど花が咲くころ、また、明和町を訪ねたいといわれました。